



記念講演

# 『始まりの庭 —世界の見方を変える—』

講師 鈴木 康広氏 アーティスト

1979年静岡県生まれ。2001年東京造形大学デザイン学科卒。日常の見慣れた事象を独自の「見立て」によって捉え直す作品を制作。公共空間でのコミッションワーク、大学の研究機関や企業とのコラボレーションにも取り組んでいる。

代表作は《ファスナーの船》《まばたきの葉》《空気の人》など。2014年に、水戸芸術館、金沢21世紀美術館で個展を開催。2016年には「ロンドン・デザイン・ビエンナーレ2016」に日本代表として公式参加した。

2014毎日デザイン賞受賞。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科准教授、東京大学先端科学技術研究センター中邑研究室客員研究員。

作品集『まばたきとはばたき』『近所の地球』（ともに青幻舎）、絵本『ぼくのにゃんた』（ブロンズ新社）がある。



撮影：中川正子

【公式サイト】  
<http://www.mabataki.com/>

## 分科会

### 第1分科会

#### 「未来を考える—美術、工芸教育をめぐる諸問題—」

助言者：女子美術大学特別招聘教授、付属高等学校・中学校校長 石川 康子氏  
アーティスト 鈴木 康広氏

美術、工芸教育をめぐる諸問題について改善策を探り、子どもの未来、美術工芸教育の未来について考えます。

### 第2分科会

#### 「社会を考える—美術、工芸教育と産業—」

助言者：静岡デザイン専門学校・専門学校浜松デザインカレッジ校長 久保田 香里氏  
有限会社神風動画代表取締役 水崎 淳平氏

美術、工芸教育が社会、産業、経済において、何の役に立っているのか、どのように支えているのか、伝統工芸も含むクリエイティブ産業をどう扱うかについて考えます。

### 第3分科会

#### 「文化を考える—美術、工芸教育と地域の文化資源—」

助言者：常葉大学キャリアサポートセンター長(全学) 造形学部教授 安武 伸朗氏

それぞれの地域で形成された特有の文化や自然、地域性を継承、又は発信するために、美術、工芸教育はどうあるべきか、また、地域コミュニティの活性化につなげるために何が出来るかを考えます。

### 第4分科会

#### 「学びを考える—美術、工芸教育の指導法・学習法—」

助言者：武蔵野美術大学教育課程教授 三澤 一実氏  
静岡大学情報学部学術研究員 遠山 紗矢香氏

美術、工芸教育についての指導方法、学習環境等に着眼し、授業改善について考えます。

「第54回全国高等学校美術、工芸教育研究大会<2017 静岡大会>」の御案内を申し上げます。

<2017 静岡大会>では「参・産・賛(さん・さん・さん)～富士山のふもとで美術、工芸教育を考える～」をテーマに、4分科会で研究発表、ポスターセッションを行います。各分科会は美術、工芸教育に関する「未来を考える」、「社会を考える」、「文化を考える」、「学びを考える」をメインテーマに産業や地域の文化資源との関わりを大会の大きな柱としています。これらのメインテーマは、本県が定める『ふじのくに「有徳の人」づくり大綱』において、「文・武・芸」三道の鼎立の実現を宣言しており、また本県産業教育審議会では、「専門高校等における新しい実学の奨励の在り方について(答申)」として、芸術科の在り方の具体的方策から導き出されたものとなっています。これらを踏まえ、美術、工芸教育をめぐる諸問題、産業との相互関係、地域の文化資源の活用、指導法・学習法に関する考察の4分科会を開催します。

次期学習指導要領の改訂に向けた答申を踏まえ、高校教育だけでなく、高校までの教育と大学での教育との連続性を意識し、人工知能を含めた高度情報化やグローバル化が進み社会生活が大きく変わることが予測される中で、学校だけでなく社会や産業との関わりを密接にし、試行錯誤しながら問題を発見し、新たな価値を創造する表現力を身に付けることが全ての人に求められています。



富士山のふもと静岡の地で美術、工芸教育に関わる多くの皆さんとお会いし、現在と未来の教育について語り合い、よい学びの機会となることを楽しみにお待ちしております。

## 研修 『静岡国宝探訪』

研修ツアー おひとり様 2,500円(お弁当付)

閉会后、下記の施設での研修を予定しています。

お申込み 御希望の方は大会申込み時に合わせてお申込みください。



撮影：望月康氏

## 静岡市立芹沢銈介美術館

昭和5(1930)年ごろから型染をはじめた芹沢銈介は、最晩年まで半世紀以上にわたって型染を手がけ、昭和31(1956)年には「型絵染」で重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。

その模様は、文字、植物、人物、風景、幾何学模様など、種類は着物、帯、のれん、屏風、額絵、絵本などと、多岐にわたります。また染色にとどまらず、本の装幀、ガラス絵、板絵、赤絵(陶器の絵付け)、看板や照明のデザイン、美術館の設計(大原美術館工芸館)等、実に幅広い分野で活躍し、国内外の芸術、生活や産業に大きな影響を及ぼす豊かな仕事を残しています。

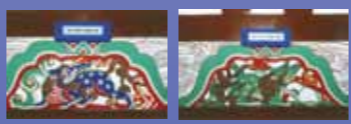


## 久能山東照宮

権現造、総漆塗、極彩色の御社殿は日光東照宮より19年前に造られ、彫刻、模様、組物等に桃山時代の技法も取り入れられた江戸初期の代表的建造物として2010年(平成22年)12月に国宝に指定されました。

徳川家康公は生前、家臣に対し、自分の死後について「遺体は駿河国の久能山に葬り、江戸の増上寺で葬儀を行い、三河国の大樹寺に位牌を納め、一周忌が過ぎて後、下野の日光山に小堂を建てて勸請せよ、関八州の鎮守になろう」(『本光国師日記』より)との遺言を残されました。

この御遺命により御遺骸を久能山に埋葬し、その地に2代将軍秀忠公の命により久能山東照宮が創建されました。



## 大会日程

時間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第1日目 8/21(月)						受付	大会役員連絡協議会 都道府県代表者会議				
第2日目 8/22(火)		受付	開会行事 記念講演	昼食			分科会		次期開催具 引継ぎ会		情報交換会 (ホテル センチュリー 静岡)
第3日目 8/23(水)	受付	ポスターセッション	全体協議 総会・開会行事				研修「静岡国宝探訪」 (希望者)				